

特集《通巻 900 号記念 広報センター センター長のご挨拶》

# 通巻 900 号にあたってのご挨拶

日本弁理士会広報センター センター長 茜ヶ久保 公二



パテント誌は、本号で通巻 900 号となりました。このような記念すべき本号の発刊にあたり、広報センターを代表してご挨拶申し上げます。

パテント誌は、昭和 7（1932）年にその前身である「特許と商標」として創刊され、その後の戦時における休刊を経て、昭和 23（1948）年に「パテント」として復刊し、本年、創刊 75 周年目を迎える歴史ある雑誌です。

「パテント誌が、知的財産に関する専門家たる弁理士から発信する知財専門誌として、読者の皆様に永く愛される雑誌となること。」パテント誌の編集に携わる弁理士の目標は、常にここにあったと思います。

本号では、特集として、パテント誌の歴代の編集長にご寄稿いただき、パテント誌の編集に携わった思い出を記していただきました。パテント誌の編集作業は、特集の企画、寄稿いただく著者の選定からはじまり、お寄せ頂いた論文の掲載号の選択・構成、そして、論文の査読と多岐にわたる大変な作業です。歴代の編集長の皆様のご寄稿をお読みいただければ、パテント誌の発行の裏にある編集部員の努力や想いを少しでも垣間見ていただけるのではと思います。

そして、本号では、パテント誌と同様に法律系雑誌として定期的に発刊されている「特許懇」、「とっきょ」、「特許研究」、「自由と正義」、「月報司法書士」、そして「会計・監査ジャーナル」の編集を担当されている各組織・団体の皆様にもご寄稿いただき、それぞれの雑誌についてご紹介とともにその編集作業にも触れていただいています。

そうした特集記事を通じて、ご購入いただいている皆様にパテント誌の歴史とその役割を少しでもご理解いただき、パテント誌をより身近に感じていただけるようになればと期待しております。また、当編集部においても、今後のパテント誌の進むべき道を見出す機会になればと考えております。

広報センターでは、パテント誌が知的財産に関する専門家たる弁理士から発信する知財専門誌としてさらにその価値が認められ、読者の皆様に永く愛される雑誌であり続けられるよう、まずは、次の 100 号を、そして発刊三半世紀から 1 世紀を目指して、引き続き編集に注力して参ります。ご購入いただいております皆様には、パテント誌はもとより、日本弁理士会広報センター、そして日本弁理士会の活動に引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、900 号発刊にあたってのご挨拶といたします。